

消費税増税で考えたこと
倉敷市立西中学校 1年
小原 千枝

今年10月、消費税が10%に引き上げられる。国民には「納税の義務」があることが憲法にも書かれている。税について、小学校で少しは習ったが、身近に存在する消費税でさえも、どのようにして国民のために使われているのか、あまりよく知らない。私は、今回の増税を機に、税について興味を持ち、調べてみた。

まず、なぜ増税されることになったのかを調べた。高齢化がすすむ日本では、社会保障費や高齢者福祉、少子化対策にかかるお金が増えている。また、国債は一千兆円を超え（2017年時点）、2018年4月時点のGDP比は200%を超えている。私は、少しぐらいはそのニュースを耳にしていたが、まさかそこまで日本の国家財政が厳しい状況にあるとは思ってもよらなかった。

次に、税収を増やすのにいろいろな税があるのに、なぜ消費税を選んだのか。消費税だと、皆がお金を使うのをひかえようとするために、消費が減り、景気が悪くなるのではないか。例えば、所得税ならば、所得に応じて税金がかけられるので、所得の低い人にとって良い制度だ。しかし、財務省のページに、所得税・法人税だと、現役世代のみに負担が集中するため、高齢者を含めて国民全体で広く負担する消費税がふさわしい。また、税収が経済動向に左右されにくく安定した税であると書かれていて、納得した。

さらに、税はどのようなところに役立っているのか。教育では、一人当たり年間に、小学生で約90万円、中・高生で約100万円が保障され、今回の増税で、幼児教育無償化が検討されている。医療では、私の住む市では小学生以下は無料になっている。電話一本で救急車がすぐにつけてくれることだってすごい。他にも、道路の整備やゴミ収集、警察や消防にしても、税金のおかげなのだ。

そうして調べているうちに、水道民営化の話に行きあたった。人口減少や節水などで集まる水道料金が減ったために、水道設備の維持が難しくなり、民間企業に託そうとしているという。資金の大幅な節約が見込める一方、海外では水道料金が上がり、住民と軍隊が衝突したり、断水して使えなくなったりして、その後、公営に戻される例もあるそうだ。日本ではそうなって欲しくないし、税金の大切さが身にしみてよくわかった、

少し調べただけでも、税は、身の回りの、気付かないほどいろいろなところで役立っていることがよく分かる。どれが欠けてしまっても、生活にすごく大きな支障が出るだろう。皆が協力して税金を払うことが、皆の生活を支え、よりよくしていくのだ。私は、税の仕組みについて、より詳しく知り、少しでも多く、社会に貢献していきたいと思った。